

## 新春挨拶

### 年頭所感



扇 千景  
国土交通大臣

平成十四年の新しい年を迎え、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年1月6日に国土交通省が発足してから1年が経過しようとしています。発足以来、国土交通省の使命である、「人々の生き生きとした暮らしとこれを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しく良好な環境、多様性ある地域を実現するためのハード・ソフトの基盤の形成」に向けて、統合のメリットを活かし、無駄なくスピーディーに、また、コストダウンを図りつつ、質の高い施策を展開し、この改革が国民のために良かったといえるよう努めております。

現在、小泉内閣の下で「聖域なき構造改革」が進められております。国土交通省としても、「21世紀国土交通のグランドデザイン」の策定や、施策の融合・連携、政策評価の一層の活用にも努めるとともに、公共事業の効率性・透明性の向上に向け、既存事業・システムの見直し、事業評価の厳格な実施、事業のスピードアップと工事の平準化等によるコスト改革の推進、公共工事入札適正化法の厳正な運用、一般競争入札の拡大等による競争性の向上、ハード・ソフトの戦略的組み合わせ、既存ストックの有効活用など、改革に取り組んでおります。

さらに、特殊法人等改革についても、内外の社会経済情勢の変化を踏まえ、昨年12月19日に閣議決定された整理合理化計画に従って、今後も、国民にとって最善の改革となるよう積極的に取り組み、改革が着実に前進するよう努力してまいります。

今後は、社会資本整備について、真に国民のためになるよう、長期計画・国土計画の総合的な見直し、構想・計画段階における幅広い意見反映、改正土地収用法の的確な運用を含め、改革の一層の推進を図るとともに、交通政策についても、本年が交通産業に係る需給調整規制廃止の仕上げの年であること等を踏まえ、地方運輸局の改革等を通じて地域密着型、事後チェック型への転換を進めます。

平成14年度政府予算における国土交通省の一般

公共事業費は、厳しい財政の中でも、当初予算と平成13年度第二次補正予算を一体としたいわゆる「15ヶ月予算」として見た場合、前年度当初予算の約六%増の予算が確保される見込みとなっておりますが、引き続き、厳しい経済情勢に対応し、事業の重点化、民間需要創出効果等に配慮しつつ、所管事業を着実に執行するほか、新市場・新産業の育成、規制改革、土地流動化、観光振興など雇用確保に資する施策を推進します。

また、建設業界の再編を促進し、技術と経営に優れた企業が伸びうる環境の整備、セーフティネットの充実等を進めるほか、厚生労働省と連携し建設業就業者の雇用環境にも十分配慮するとともに、造船・関連業界の経営基盤強化、内航海運の構造改革にも取り組みます。

具体的な施策としては、魅力と国際競争力ある都市の再生、個性ある地域・美しい国土の形成、環境にやさしい社会の実現、バリアフリーなど少子・高齢社会への対応、グローバル化の進展に対応した円滑な人の交流と競争力ある物流の実現、IT革命の推進など21世紀型課題に対し、国土交通省の幅広い守備範囲を活かして、総合的な展開を図ります。

また、米国同時多発テロ事件を踏まえ、引き続き、陸海空の公共交通機関や重要施設の警備を強化するとともに、航空会社や旅行関連事業者への支援、沖縄観光の振興に取り組めます。

さらに、平成13年12月に発生した九州南西海域不審船事案に対しては、海上保安庁において困難な状況の下適切に任務を遂行したものと考えております。今後は、事案の解明に努めるとともに、今回の事案を踏まえ不審船への対処に必要な装備、体制、制度等について検討してまいります。

以上、新しい年を迎え、私の所信の一端を申し述べましたが、今後とも、国土交通行政の推進に関し、国民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして希望に満ちた、大いなる発展の年になりますことを心より祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。